

2007-2008

2007年度年次報告
2008年度活動計画



社団法人 シャンティ国際ボランティア会



活動地域

SVA宣言

私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話をもって解決される社会のことです。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切に、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

SVAの歩み 活動年表

1980 年	SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所（バンコク）開設。
1981 年	JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会（SVA）を結成。
1983 年	カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。
1984 年	初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。
1985 年	タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンプルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。
1989 年	タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。
1991 年	カンボジア事務所（プノンペン）開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。
1992 年	ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。
1995 年	阪神淡路大震災支援活動開始。
1997 年	北朝鮮食糧支援。
1999 年	「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。トルコ大震災救援、台湾大震災救援。「絵本を届ける運動」開始。
2000 年	ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
2001 年	インド西部大地震救援。アフガニスタン食糧支援。
2002 年	佐々木主浩投手（当時）、SVA国際ボランティア親善大使就任。
2003 年	アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。有馬実成著「地球寂静」出版。イラン南東部地震救援開始。
2004 年	兵庫県豊岡市台風23号水害救援。新潟中越地震救援。スマトラ島沖津波災害救援開始。阪神淡路大震災10周年事業。
2005 年	三宅島島民帰島支援事業開始。愛・地球博「地球市民村」へ参加。パキスタン北東部地震救援開始。
2006 年	ジャワ島中部地震救援開始。
2007 年	能登半島地震救援。新潟中越沖地震救援。バングラデシュ・サイクロン（台風）シドル救援開始。

2007 2008

2007年度年次報告 2008年度活動計画

INDEX

- 2 SVA宣言・SVAの歩み
- 3 共に生き、共に学ぶ
- 4 2007年度を振り返って
- 5 2008年度に向けて
- 6 タイ
- 8 カンボジア
- 10 ラオス
- 12 ミャンマー（ビルマ）難民
- 14 アフガニスタン
- 16 緊急救援
- 18 日本
- 20 会計報告
- 22 組織・ネットワーク一覧

共に生き、 共に学ぶ

社団法人
シャンティ国際ボランティア会（SVA）
会長 若林恭英

松永前会長よりバトンを引き継ぎ一年余、この間いろんな場面で、各方面から我々の活動に対する大きな期待を常に感じてきました。当会の活動が、一過性のものではなくいつでも国内外の現場に張り付いて、地道ながらも信頼関係を確実に構築し、活動を展開してきていること、また、それぞれの地域の人々からも、この活動の意味するところをしっかりと受けとめられてきていることを、多くの方に評価していただくことができました。

2008年2月、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプを訪れた際、当会の活動をしっかりと受けとめている人々の声を実際に聞く機会に恵まれました。

それはメラ難民キャンプの新図書館委員会発足時に、カレン族代表のアーサーさん（年の頃六十歳）が詩の形で次のような挨拶をされたときのことでした。

「昔、ビルマは自然に囲まれたとても美しい国でした。しかし、徐々に自然は破壊され、以前のような美しさは消えてしまい、次々に問題は起こりました。ビルマの人々は、外の国々に援助を求めなければならなくなりました。やがて様々な国々が支援にきました。しかしそれでも、ビルマの人々は、求めているものを得ることができませんでした。そんな時、日本（SVA）という国が来て、ある道筋を示してくれました。そして人々は、その道筋を行くことによって、知識を積み、自分自身を高め、以前の美しい国へと歩んで行くことができるという希望をもったのでした。」

SVAが永年にわたって築き上げてきた地道な活動が、苦難の状況下にある人々の心に深く根付き、自立への道を模索する力になっていることを代表は詠ってくれたのです。

しかし、現在のミャンマー情勢は、予断を許さない状況にあります。他の支援活動地域においても、困難な状況に置かれている人々が大勢いることも事実です。それらの状況を我々自身の問題としてしっかりと受け止め、皆さまと共に、そうした人々に寄り添っていくことが、SVA草創期の歩みでありましたし、これからの歩みだと思うのです。



ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ図書館にて（中央右：筆者）

2008年6月1日発行

発行人：若林恭英

（社）シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31

慈母会館2・3F

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

<http://www.sva.or.jp>

info@sva.or.jp

表紙写真：川畑嘉文

AD：矢萩多聞

印刷：シナノ印刷

定価：550円

2007年度を振り返って

2007.1.1~12.31



2007年度は、支援者や他団体との「顔が見える関係」の構築を考え、各種イベントや現地訪問ツアー（ラオス）、九州において代議員のつどいを実施しました。また、2008年に開催されるG8サミットに向けてNGO団体間でネットワークを組み、シビルG8に向けて準備委員会にも関わりました。



海外事務所スタッフ研修

4月、アフガニスタン、カンボジア、ミャンマー（ビルマ）難民事業の3つの事務所より図書館担当スタッフならびに教育省関係者を招聘し、児童図書出版についての研修をユネスコ・アジア文化センター（A C C U）との共催で行いました。また、8月にはSVAタイランドに、各海外事務所の経理担当スタッフが集い、経理実務に関する研修会を実施し能力強化に努めました。

チャイルド・ブック・サポーターのイベント開催とツアーの実施

4月、高見のつば氏や図書館関係者を招き、都内でシンポジウム、10、11月にはサポーター交流会を開催しました。8月にはサポーターと「絵本を届ける運動」の参加者を中心に、現地訪問ツアー（ラオス）を行いました。

特定公益増進法人の更新

12月、公益事業を実施する団体として、「特定公益増進法人」の更新を行い、新たに相続税の税制優遇も加わりました。また、2008年12月から施行される新公益法人への移行についての情報収集を行いました。

組織全体の広報について

Webサイトのリニューアルを行い、インターネット募金も本格的に開始しました。10月には会員対象のニュースレター「シャンティ」のリニューアルを行いました。

2007年の主な出来事

- 1月 SVAのキャッチコピー・スローガンが決定。
- 2月 「絵本を届ける運動」の絵本16,006冊を輸送（カンボジア、ラオス事務所には3月に到着）。
- 3月 能登半島地震救援活動を開始。
SVA通常総会を開催。
カンボジアにて「全国おはなし大会」を開催。
- 4月 チャイルド・ブック・サポーターイベントとして、高見のつば氏、松岡享子氏のシンポジウムを東京で開催。
ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン向け「絵本を届ける運動」を開始。
- 6月 チャリティコンサートを東京のカーサ・クラシカにて開催。
タイより「アジア子ども奨学金」の奨学生であるモン族の子どもたちが来日。
- 7月 中越沖地震救援活動を開始。
「SVA新旧会員を囲む会」を開催。
- 8月 タイにて各海外事務所の経理担当者研修会を開催。
東京にて児童図書出版に関する研修会を開催し、各海外事務所から参加。
- 9月 ラオスにて「第2回漢字デーイベント」を開催。
- 10月 九州にて代議員のつどいを開催。
ニュースレター「シャンティ」の内容、デザインをリニューアル。
- 11月 バングラデシュにおけるサイクロン救援活動を開始。
- 12月 SVA通常代議員会と「SVAの日」記念行事を開催。



27年間の活動実績を生かして

2008年度は、3カ年計画（2008年～2010年）の初年度としてさらなる飛躍のために、「手を、とりあうこと。」をモットーに第一歩を踏み出します。

27年間、アジアの地において図書館事業を中心に「初等教育の普及」に取り組んできたNGOとして、今一度、海外事業の現場において蓄積されてきた活動資源の「質の向上」に努め、日本国内においてはより「共感を得る」運動体として活動を拡げていく年とします。

海外事務所における 現地スタッフの連携、 さらなる人材育成

カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民事業、アフガニスタン事務所においては、管理部門の業務の整備と強化を図ると共に、各事務所の現地スタッフの人材育成を継続します。また、各事務所で蓄積された、実務上のノウハウの共有を進め、事業に反映し、現地自立の可能性を模索していきます。

現地の図書館事業を 中長期に支える仕組みを 強化する

着実に子どもたちの教育機会を増やし、SVAの図書館が子どもたちの未来の希望を拓きつつあるミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンの活動のアピールに努めていきます。また、組織全体として海外の図書館事業の運営の改善、国内各事業の収支バランスの見直しを進め、経営的視点をもって事業に取り組みます。

2008年度に 向けて



2008.1.1~12.31

東京事務所の役割強化

東京事務所は、支援者と海外の活動現場をつなぐ橋渡し役であることを確認し、支援者とのコミュニケーションを大切に、管理・運営の強化に努めていきます。また、東京事務所は日本国内での運動体機能として存在することを再認識し、SVAの発信する国内運動（「絵本を届ける運動」、「クラフト・エイド」、「リサイクル・ブック・エイド」、「チャリティイベント」等）の輪を、会員・代議員を中心に地域で拡げていきます。

タイ Thailand

DATA

公用語：タイ語
首都：バンコク
面積：514,000km²
人口：6,242 万人
(2005 年、外務省)
GDP：一人当たり 3,179USドル
(2006 年、外務省)
通貨：バーツ (B)
日本との時差：－ 2 時間

タイの概況

クーデター後、軍部主導の暫定体制が続いていましたが、12月の国民総選挙の結果、1年5か月ぶりに民政復帰を果たしました。旧首相派と、軍部との反発関係から、再び政情が不安定になる可能性が高い状況です。1960年代から急増してきた都市スラムはバンコクのみならず地方都市にも存在し、その数は4,000カ所を超えたともいわれており、富の二極化は進む一方です。



カレン族の村での移動図書館活動
© Seto masao



スピーチをする奨学生

2008年度は、これまでの事業地の評価を進めつつ、各事業地の自立化に向けて地域との連携を強めていきます。同時に、より困難な地域の子どもたちのもとに届く教育支援活動のさらなる充実に努めます。

図書館事業

2007年度、バンコク・スラム地区および地方における対象地での図書館事業の全体の受益者数は約13万人でした。内訳は、コミュニティ図書館利用者10万709人、移動図書館活動への参加者2万3,640人、保育士研修会の受講者202人、さらにその間接受益児童約1万人。また、山地民カレン族の村が多く存在するターク県ターソンヤン郡にて研修会および移動図書

館活動を実施しました。子どもたちへの直接的サービスに加え保育士への働きかけを組み合わせることにより、子どもの心身の発達における絵本およびおはなしの重要性が行政を含む地域の中で認識されました。2008年度も、各活動の効果が相乗的に作用し、点から線へ、次には円状へと波及していくよう工夫を重ねていきます。

アジア教育奨学金事業

2007年度は、パヤオ県ポン郡、ルーイ県チェンカーン郡、スリン県ムアン郡を中心とする地域、バンコクのスラムおよび、元スラム住民の居住地域で就学している447人の中高生、大学生に奨学金を支給しました。従来の支援地区の中でも国発表の就学率を大きく下回る山間部の村や辺境の農村地帯への支援を重点的に行うほか、奨学金による効果をより大きなものにするために、奨学生選考基準を厳しくしました。

また、都市スラム、東北農村地区で奨学生を対象に、「奨学生青少年リーダー育成キャンプ」を開催しました。さらに、新学期前の長期休みには、各地の奨学生の中から選抜した青少年ボランティアによる地域図書館や地域事業所の活動を実施し、社会の未来を担う人間育成に努めています。2008年度も、より困難な子どもたちの就学率の向上に努めます。



●地域別の奨学金受給生数（2007年度）

活動地域	中学	高校／高専	大学／専門	合計
バンコク	75 (45)	40 (23)	1 (1)	116 (69)
スリン	18 (11)	35 (26)	4 (2)	57 (39)
ルーイ	71 (47)	57 (38)	2 (2)	130 (87)
パヤオ	92 (65)	43 (32)	9 (6)	144 (103)
合計	256 (168)	175 (119)	16 (11)	447 (298)

※（ ）女性の数

●地域別の学生寮受入者数（2007年度）

活動地域	名称	中学	高校	合計
ルーイ	チェンカーン学生寮 (メコン青年の家)	23 (19)	7 (7)	30 (26)
パヤオ	シャンティ学生寮	23 (10)	25 (16)	48 (26)
合計		46 (29)	32 (23)	78 (52)

※（ ）女性の数

●コミュニティ図書館の利用状況（2006—2007年度）

図書館名	2006年	2007年
クロントイスラム図書館（バンコク）		
蔵書数	3,820	5,602
貸出冊数	2,811	3,277
利用者数	26,492	19,548
スアンプルー復興地区図書館（バンコク）		
蔵書数	441	3,309
貸出冊数	163	2,052
利用者数	2,222	6,710
チュアパーンスラム図書館（バンコク）		
蔵書数	1,917	2,281
貸出冊数	1,194	2,343
利用者数	9,494	20,716
バーンサワイ図書館（スリン県）		
蔵書数	1,785	2,149
貸出冊数	10,236	11,440
利用者数	14,300	14,886

図書館名	2006年	2007年
センサイ村図書館（パヤオ県）		
蔵書数	546	946
貸出冊数	420	2,554
利用者数	2,572	12,508
ナイレイ小学校内図書館（バンガー県）		
蔵書数	2,130	2,501
貸出冊数	5,969	3,300
利用者数	9,688	8,173
ブルッティアウ図書館（バンガー県）		
蔵書数	1,449	2,241
貸出冊数	4,294	4,365
利用者数	10,268	6,781
サマーキータム寺内図書館（バンガー県）		
蔵書数	1,698	2,397
貸出冊数	5,902	5,955
利用者数	12,309	11,387
合計		
蔵書数	13,786	21,426
貸出冊数	30,989	35,286
利用者数	87,345	100,709

中高生学生寮

2007年度、パヤオ県で山岳少数民族の子どもたちを48人、ルーイ県で農村地域の子どもたちを30人受け入れました。貧しい辺境地域では、中学校以上の段階の教育施設が少ないため、通学が不可能となる子どもたちが増えてきます。学生寮ではこうした地域の中高生を受け入れ、勉強だけではなく、スタッフの指導による農業実習や地域への奉仕活動なども行ってい

ます。また、他団体との交流キャンプ、奨学生キャンプに会場を提供し、寮生が実行委員として関わることで、参加者としてだけではなく、受け入れ側としての学びの機会を得ることができました。2008年度は、青少年育成活動により力をいれ、さまざまな研修、交流の場として学生寮を活用していきます。

研修・交流事業

2007年度、約700人の訪問者を受け入れました。6月には、奨学生10人とタイ人スタッフ2人が日本を訪問。訪問先では、事業紹介のほか伝統舞踊を披露するなど文化交流を行いました。また、7月、11月にそれぞれ1人のスタッ

フが日本で研修を受け、日本の保育、教育、地域開発などの現場を視察しました。

これらの研修・交流事業によって個々が得た経験は、その他の奨学生やスタッフにもフィードバックされています。

スアンプルー・スラム火災復興支援事業

火災より4年目を迎え、未だ避難所暮らしを強いられる人々がいるものの、約半分の被災者はようやく復興住宅への入居を終えました。この復興住宅地区の中心部に、図書館、保育園および会議室などの機能を備えたコミュニティセンターを建築し、8月に保育園、9月に図書館の運営を開始しました。保育園は2歳半から6

歳までの子どもたち40人が通い、図書館は月に約1,600人が利用しています。今後、立地条件および第三者としての中立性という強みを生かし、火災によって途絶えたコミュニティの人と人とのつながりを復興させるきっかけを生む場所作りを目指し、活動を続けていきます。

スマトラ沖地震津波災害復興支援事業

事業終了となる2007年度は、被災地に建築した図書館3館が開館2年目を迎えました。懸念された利用者離れもなく、安定した利用があり、地域への定着が伺えました。また、移動

図書館活動の参加者は5,207人、保育士研修会の参加者は86人でした。事業自体は終了しましたが、図書館への側面的支援および定期的なモニタリングは今後も継続していきます。



パヤオ学生寮の食事の様子
© Seto masao



日本の高校生のスタディツアー



南タイの被災地の図書館

カンボジア Cambodia



DATA

公用語：クメール語
首都：プノンペン
面積：181,000km²
人口：1,380 万人
(2005 年、IMF 資料)
GDP：一人当たり 454USドル
(2005 年、IMF 資料)
通貨：リエル (KHR)
日本との時差：－2 時間

カンボジアの概況

近年、原油の世界的値上がりの影響等による建築資材の高騰が大きな問題となっています。また、貧富の格差、社会的不正等が広がる一方です。教育の分野でも小学校 6 年生を卒業できるのは、50%以下（全国平均）。全国で 1 万 5,000 教室の不足、都市と地方の格差、教員の質と量の不足、教科書・図書等の不足が依然として大きな問題です。

S VA全体の使命を果たすために、スタッフ全員が「情熱」と「夢」を共有し事業を実施します。また、支援者・理解者を増やすために事業活動地の訪問者の増加に力を入れます。

- ①カンボジア人スタッフによる事業・組織運営能力の向上 ②各事業間の連携と全体のチームワークの強化
- ③各研修を通してのスタッフの能力強化 ④効率的な事務所運営のため、スタッフの役割、職責の明確化
- ⑤事業報告と情報共有の迅速化、に重点を置き活動を展開します。

図書館事業

新しくシェムリアップ州を対象地域として、図書館活動の普及のための事業を開始しました。最大の成果は、同事業を通して州レベルだけでなく、国の政策として国レベルの教育省の職員を養成することによって、全国の小学校すべてに図書館を設置する基礎を作ることができたことです。また、同事業の一環として、中央と地方で様々な研修会を開催しました。カンボジア語の絵本(7タイトル、2万1,000冊)と紙芝居(3

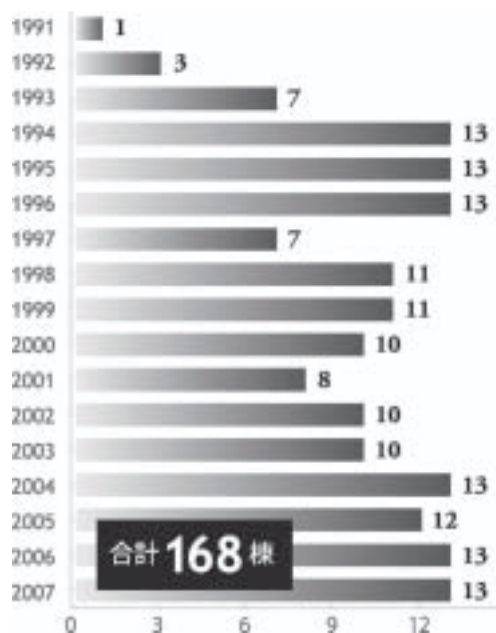
タイトル、1,050冊)、日本からの絵本と紙芝居等2万6,948冊を配布しました。移動図書館活動は、121回実施され、2万3,543人の子どもたちが参加しました。

2008年度は、事業の深化をさらに図るために、教育省やシェムリアップ州教育局との連携強化をすすめ、モデル図書館2館（教員養成学校と小学校）も建設します。



図書館員育成研修会

●小学校建設数（1991—2007 年度）



学校建設事業

2007 年度は、資材高騰の中、コンボントム州に加え、新たにシェムリアップ州を対象に 13 棟の小学校を建設し、2,556 人が恒久的な新校舎で学ぶことが可能となりました。最大の成果は、州教育局、郡教育局、村の学校建設委員会と協力し、従来の住民参加型による校舎と井戸とトイレの建設に加えて、図書館活動や環境整備のための植林活動を行い、「知育」「徳育」

「体育」が可能なカンボジアのモデル校を建設できたことです。

2008 年度は、州教育局、郡教育局と協力し、対象地域の最貧困の村で 14 棟の小学校を建設する計画です。同時に、学校設置基準を満たし長期的マスタープランによる「夢の学校」のモデル化をさらに進めていきます。



建設中の小学校



僧侶による植林活動

文化支援事業

2007 年度は、カンボジア全国の僧侶を対象として、バンティミンチェイ州において、全国仏教研修会を開催し、各地から 507 人の僧侶、州、郡の宗教局関係者が参加しました。また、僧侶のためのアンコール遺跡研修ツアーの開催、寺院を中心とした植林活動等、仏教復興支援に大きく貢献しました。伝統文化・芸能の保

存のための研修会には、375 人が参加。また、2,500 冊のクメール語文法図書の出版と配布を行いました。

2008 年度は、伝統文化保護や自然環境保護における寺院の役割に関する調査や研修を行い、実践の中で既存の事業をさらに深化させていく計画です。



スラムでの読み聞かせ

スラム事業

2007 年度は、9 月から専従の新スタッフ 2 人の採用と、小型移動図書館車の導入を行い、本格的な移動図書館活動を開始しました。20 カ所のスラムを対象とした移動図書館活動には、4,224 人が参加しました。また、スラムの立ち退きで困難な環境にあるスラムの子どもた

ち 572 人に学用品の支援をしました。

2008 年度は、新スタッフの研修・能力強化を行い、移動図書館活動の質の向上をより図る計画です。また、立ち退き問題が深刻なスラムでの活動の中長期計画を作成します。



読書の時間を楽しむ子どもたち

ラオス Laos

DATA

公用語：ラオス語
 首都：ヴィエンチャン
 面積：240,000km²
 人口：580 万人
 （2006 年、世界統計）
 GDP：一人当たり 678USドル
 （2007 年、ラオス政府）
 通貨：キップ（KIP）
 日本との時差：－2 時間

ラオスの概況

首都ヴィエンチャンでは順調な経済成長と土地バブルのような状況もあり、車の急激な増加、建設ラッシュが起っています。一方で都市から離れた地方では経済、産業、教育分野とも発展が遅れており、都市と地方の格差がますます大きくなっています。教育省は 2020 年までに義務教育の 100%普及を目指していますが、まだまだ遠い道のりだといえます。



ゲンクー小学校贈呈式



リソースセンター建設



➡ こ数年目指してきた「モデル支援」→「ネットワーク化」→「より困難な地域への普及拡大」という方向性を継続し、「スクールクラスター」「公共図書館」「子ども文化センター」「幼児教育」など各分野で、長期的かつユニークで他団体のできない支援をしていきます。また、社会的なマイノリティである、「少数民族」「障がい児者」などへは特に優先的に支援を届けられるように努力していきます。

学校建設と村ぐるみの教育改善事業

ボリカムサイ県に小学校 1 棟、サラワン県に小学校 2 棟とリソースセンター 2 棟を建設し、500 人の子どもたちが安全に学習できる環境を提供することができました。

ソフト面では、効率的な教育改善策の要である「スクールクラスター制度」、そして授業で使用する補助教材の作成や読書推進を担う「リソースセンター」の運営・活用方法に関する研修会をボリカムサイ県、サラワン県内にて実施しました。教育の底上げは村ぐるみで取り組むことが重要であると考えられるため、研修会の参加者は政府関係者、教員、児童の父母や村人を含めて実施されました。

また、南部地域で多く生活する少数民族の子どもたちが、ラオスの公用語であるラオス語で

行われる授業内容を理解し、教員と円滑にコミュニケーション出来ることを目的とした補助教材を制作し、2008 年度に研修会を開き配布する予定です。

●各研修会の参加者数（2007 年度）

研修会名	参加者
スクールクラスター運営研修会	62 人
教員の質向上を目的とした研修会	102 人
父母研修会	106 人
読書推進研修会	85 人
年次評価ミーティング	83 人

●各県の公共図書館の利用状況（2006—2007 年度）

図書館名	2006 年	2007 年
ルアンパバーン県図書館		
利用者数	35,843	45,719
貸出者数	15,945	21,142
貸出冊数	35,727	42,466
新規会員	479	555
シェンクワン県図書館		
利用者数	5,798	10,701
貸出者数	1,790	4,284
貸出冊数	4,119	10,932
新規会員	164	226
ヴィエンチャン県図書館 (2007 年 5 月開館)		
利用者数	-	24,928
貸出者数	-	2,146
貸出冊数	-	5,942
新規会員	-	232

図書館名	2006 年	2007 年
ヴィエンチャン市立図書館 (2006 年 12 月開館)		
利用者数	-	88,591
貸出者数	-	12,336
貸出冊数	-	22,999
新規会員	-	1,380
サワンナケート県図書館		
利用者数	24,279	27,278
貸出者数	3,703	3,658
貸出冊数	7,240	8,178
新規会員	272	159
チャンパサック県図書館		
利用者数	11,255	11,694
貸出者数	2,302	3,368
貸出冊数	5,891	8,894
新規会員	258	1,343

図書館と青少年事業

ヴィエンチャン県公共図書館が 5 月に完成し、支援している公共図書館はルアンパバーン県、シェンクワン県、ヴィエンチャン市、サワンナケート県、チャンパサック県の 6 館となりました。2007 年度は、これらの図書館の図書館員に研修を実施し、さらに合わせて 8,191 冊（ラオス語 4,988 冊、タイ語 3,203 冊）の図書を補充しました。6 館の 1 年間の利用者数は合計 20 万 8,911 人で順調に機能しています。2008 年度もこの活動は継続していきます。

図書箱配布活動では 2007 年度から 2009 年度まで、北部シェンクワン県の小学校への配布を行います。2007 年度は 12 月に対象校 60 校

の先生に研修を実施、計 90 箱を配布しました。対象校の小学生総数は 1 万 2,797 人でした。

移動図書館車は週 5 日、ヴィエンチャン首都内の各地を定期的に訪問しています。訪問先は、7 つの小学校と「視覚障がい者施設」「薬物中毒リハビリセンター」「貧困者の多い村」などです。2008 年度も特に図書に触れる機会の少ない場所への訪問活動を継続していきます。

また幼児教育分野では、首都にあるドンカムサーン教員養成学校内にモデル幼稚園建設の調整を行いました。今後、ラオス全国の幼児教育の質の向上にむけて、協力を続けていく予定です。



ヴィエンチャン県図書館開館



アジア子どもの家 伝統舞踊のクラス

アジア子どもの家事業

2007 年度、8 歳～13 歳ののべ利用者数は 17,725 人（うち女子 60%）でした。子どもたちが参加できるクラスは「伝統舞踊」「伝統音楽」「日本語」「演劇」「卓球」など 25 種類になりました。伝統文化活動では、踊りのグループが、

ベトナム、中国、タイ（SEAgame）などにラオスの代表として招聘されました。2008 年度は特に地方の「子ども文化センター」との関係強化、公共図書館との連携、国営 TV との協力などに力をいれていきます。

研修交流事業

「アジアの子どもと出会う旅・2007 夏ラオスツアー」を 8 月 20 日～26 日に実施、日本各地から 26 人の支援者が参加しました。一行はヴィエンチャン市立図書館や「子どもの家」を訪問、ナローン村でのホームステイ、ルアン

パバーンでは図書箱を配布したシェンローン小学校などを訪問しました。

2007 年度のラオス事務所の訪問グループは 35 団体、訪問者数は 241 人でした。



子どもの家にて交流（ラオスツアー）

ミャンマー(ビルマ)難民 Myanmar (Burma) Refugees

DATA

●主にカレン族が居住するキャンプ

① メラウ難民キャンプ	15,359 人
② メラマルアン難民キャンプ	15,414 人
③ メラ難民キャンプ	40,897 人
④ ウンピラム難民キャンプ	18,790 人
⑤ スボ難民キャンプ	15,658 人
⑥ バンドンヤン難民キャンプ	4,316 人
⑦ タムビン難民キャンプ	7,571 人
合計	118,005 人

(2008 年 2 月 TBBC 調べ)



難民キャンプの概況

23年目を迎えた国境の難民キャンプにはいまだに 14 万人が滞留。3 年目になる第三国定住政策は欧米 11 カ国に約 2 万人以上を送り出しました。2008 年度の数値は 1 万 7,000 人ですが、ミャンマー(ビルマ)国内の長期化する人権侵害や 2007 年 9 月の民主化デモ関係者への迫害の影響で、難民流入が後を絶たず、結果としてキャンプ人口総計はそれほど増減しない状況になっています。

第 第三国定住政策や「新難民」の流入でキャンプの人口構成が変化する一方、その影響は NGO スタッフの人材危機を生んでいます。2007 年度はメラキャンプの図書館員計 12 人中 10 人が定住といった状況で、後任の人材にも限りがありその育成にも多くの時間を要します。2008 年度はこうした状況を鑑み、SVA 事業スタッフによるサポートを強化しつつ、図書館員の採用や育成をより効率的に行うよう工夫します。また、第三国定住を目指す人、本国帰還を待つ人、双方に役立つ有益な情報や活動を提供する身近な公共図書館としての役割を担っていきます。

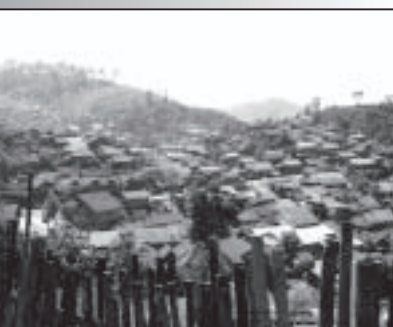
図書館事業

◎ 既存の図書館建物の拡張・改築

図書館全 25 カ所中 7 カ所で耐久資材を使った拡張・改築を実施しました。これまでの竹に代わってセメントを敷き詰めた床は表面がスムーズになり、伝統舞踊教室やゲームなど様々な活動が安全に実施できるようになりました。2008 年度も引き続き、必要な場所に耐久資材を利用していきます。

◎ 絵本を通じた親子ふれあい活動

図書館をあまり利用していない母親層を対象として、7 月に各キャンプでワークショップを実施。母親らに絵本や読み聞かせの意義を伝えました。その後、各図書館に母親向けの「図書箱」が設置され、恒常的に利用する母親が増えました。2008 年度は、その図書箱をよく利用している母親に対してフォローアップ研修を実施します。



丘に密集する住居

◎ 児童書、成人用図書の配布

日本で出版された絵本 10 タイトル、タイで出版された絵本 10 タイトルを各図書館に 4 冊ずつ配布しました（カレン語、ビルマ語各 2 冊）。また「ミャンマー（ビルマ）難民に絵本を贈る運動」を発展的に東京事務所の「絵本を届ける運動」に統合しました。日本の絵本のビルマ語訳作成とタイの絵本のカレン語・ビルマ語訳作成は現地事務所で対応しました。

成人用図書は、ビルマ語の小説、農業、家庭、保健・医療関係書、雑誌、新聞などを中心に、各図書館に毎月平均 40 冊を配布しました。

2008 年度も同規模での配布を予定しています。特に児童書では「平和構築」につながる絵本を含む 10 タイトルが選定されています。

◎ 文化学習活動

各図書館では、子どもたちと共に絵画、工作、折り紙などの活動を行いました。また、こどもの日、絵本コンテスト、母の日、カレン族のお祭り、父の日など大小 5 回程度の行事を実施しました。

◎ 絵本・教材出版

出版は高齢者から聞き取った民話 2 タイトルおよび絵本コンクール（6 月～9 月実施）の優秀作品 2 タイトル、計 4 タイトル（各 2 言語）の編集を進めました。編集担当スタッフの退職などもあり、編集・印刷過程に予想以上に時間がかかったため、事業完了は次年度になりましたが、各タイトルを 2,000 冊ずつ（カレン語 1,000 冊、ビルマ語 1,000 冊）、合計 8,000 冊を印刷しました。2008 年度は 3 タイトル（2 言語）各 1,000 冊、計 6,000 冊の年度内完成を目指します。

◎ コミュニティを対象とした活動

2006 年度立ち上がった図書館青少年ボランティア（TYV）は各キャンプ約 20 人の若者たちで構成されています。2007 度は年 2 回の研修会と人形劇を中心にしたキャラバン活動を行い、いずれも子どもたちに好評でした。大人向けには、「スピーチコンテスト」、「絵本コンテスト」などを実施、高齢者を対象にした行事も 5 回実施しました。

2008 年度も読書推進、伝統文化維持継承につながるイベントを積極的に行っていきます。

◎ 伝統文化活動

伝統楽器 3 種類（タナキクロ：竖琴、カナ：マンドリン、ソートゥ：バイオリン）と伝統舞踊の教室を各キャンプで開催していますが、2007 年度実施できた教室数は、講師不足もあって以下の通りとなりました。

伝統文化教室の内容	教室を開いたキャンプ数
タナキクロ	▲▲▲▲▲▲▲ 7
カナ	▲▲▲ 3
ソートゥ	▲▲ 2
カレン舞踊	▲▲▲▲▲▲▲ 7

日頃の活動の成果は、各キャンプにおけるコンテストや各種行事にて披露されました。

2008 年度は教授法やコース内容を改善し、より魅力的なコース展開を図ります。

◎ 図書館員・図書館委員会への研修

既存の図書館員への研修は各キャンプで 1 回ずつ、新人に対する事前の基礎研修は随時実施しました。11 月には第 5 回図書館員合同研修会をメラキャンプ内で実施しました。図書館の運営に助言・協力をもらう機関であるキャンプ毎の図書館委員会に対しても、5 月に合同研修会をメラキャンプにて実施しました。

2008 年度も、図書館スペースや各種活動を主体的に管理・運営できるよう、能力強化研修を行います。

◎ 作家・イラストレーター養成研修

難民による絵本出版活動を促進するこの研修は、2007 年度が第 2 回目。8 月に図書編集委員会があるウンピラムキャンプを会場に、10 人の参加者が集まり、2006 年度同様にタイ人絵本作家のチーワン先生および 2 人の絵本編集者の協力を得て、実施されました。

◎ タイ・カレン保育所・小学校での移動図書館活動

2007 年度から対象を絞り、メラ難民キャンプがあるターク県ターソンヤン郡の 26 の保育園および 5 校の小学校で活動を行いました。SVA タイランドと協働して、6 月には教員向け読書推進研修会を実施し、その後図書箱の貸し出し、モニタリングを実施しました。

2008 年度は、日本から保育専門家を招聘した研修活動を予定しています。



日本の絵本を読む子どもたち



授業風景（カレン伝統衣装着用の日）



図書館員および図書館委員会との四半期会議



母の背中で

アフガニスタン Afghanistan



DATA

公用語：パシュトゥン語、ダリ語

首都：カブール

面積：652,225km²

人口：2,209 万人

(2006 年、アフガニスタン中央統計局)

GDP：1 人当たり 250 ドル

(2004 年、在日アフガニスタン大使館)

通貨：アフガニ (AFA)

日本との時差：－ 4 時間 30 分

アフガニスタンの概況

世界の難民人口約 839 万人のうち 22% に当たる 191 万人がアフガニスタン難民だといわれています。最新の統計によると、4 人に 1 人が 5 歳になるまでに尊い命を失っています。識字率 28% という国の教育基盤を改善するために、基礎教育の充実、国の最重要課題の一つとなっています。

2007 年に政府は教育政策 5 カ年計画を発表しました。校舎などのインフラ整備だけでなく、教員研修や、理科室や図書室などの付属教室の充実を掲げています。

地域住民とのネットワークを大切に、カウンターパートである教育省・局との協力関係を強化しながら、学校を中心に図書活動を展開し、学校活動に定着していくよう取り組んでいます。一方で、貧困により学校に行けない子ども、働いている子どもたちへの側面支援も重要になっています。他の国際機関との連携を強化し、安全管理を行いながら、引き続きナンガハール州にて活動展開を行っていきます。

学校図書室推進事業

◎移動図書箱活動・教員ワークショップ事業

2007 年度、一箱に 50 冊の絵本や本をつめた図書箱を使い、ジャララバード市内と市外の 26 校を対象に、年間で 75 回の移動図書箱活動を実施しました。絵本や紙芝居の読み聞かせやゲームを行い、合計 3,653 人の子どもたちと 211 人の教員が活動に参加しました。また、地方 5 郡、15 校を対象に 5 日間の教員ワークショップを開催し、340 人の教員が参加しました。

2008 年度は、ジャララバード市内 22 校および地方の 3 校を対象に活動を展開する予定です。

◎絵本・紙芝居出版事業

2007 年度は、7 タイトルの絵本をパシュトゥン語、ダリ語各 600 冊ずつ、2 タイトルの紙芝居をパシュトゥン語、ダリ語各 200 セットずつ出版しました。出版においては、7 人の出版委員会のメンバーが、お話の選択、構成などに関与しました。これらの 8,400 冊の絵本と 800 セットの紙芝居は、ナンガハール州の 25 校、約 6 万 2,000 人の児童と子ども図書館にて活用されます。

2008 年度は、9 タイトルの絵本と 2 タイトルの紙芝居を出版する予定です。



手作り教材を楽しむ子どもたち

●絵本・紙芝居出版タイトル数 (2003—2007 年度)

年度	絵本	紙芝居	合計
2003 年	5	0	5
2004 年	10	0	10
2005 年	8	2	10
2006 年	5	2	7
2007 年	7	2	9
合計	35	6	41

●小学校建設数 (2003—2007 年度)

年度	棟数	教室数	図書室数	生徒数 (うち女子)
2003 年	2	21	1	1,980 (790)
2004 年	4	49	4	3,811 (837)
2005 年	2	26	2	2,185 (870)
2006 年	4	33	3	1,594 (547)
2007 年	3	36	3	2,930 (2,028)
合計	15	165	13	12,500 (5,072)

子ども図書館事業

2007 年度、ジャララバード市内に常設している子ども図書館には、3 歳から 15 歳までの 2 万 1,936 人の子どもたちが訪れました。月例活動では、お誕生会、母親会、こどもの日などの行事を行い、子どもたちだけでなく母親たち



子ども図書館に訪れた子どもたち

学校建設事業

2007 年は、シェワ郡カラタック小学校 (児童 1,126 人、教員 28 人) に 10 教室の校舎を 1 棟、シェワ郡サイドジャマルディン男子小学校 (児童 902 人、教員 34 人) に 13 教室 (図書室 1 室) を 1 棟、コット郡コット女子小学校 (児童 904 人、教員 30 人) に 13 教室 (図書室 1 室) を 1 棟の計 3 棟を建設しました。各学校には、教員向けの家具備品および生徒向けの文具を配布しまし

の参加も促しました。また、経済的な理由で学校に行けない子どもたちや学校に行き始めたものの授業について行けない子どもたちなどのために、学習教室を開設しました。学習教室には、1 日平均 50 人の男女児童が参加しました。



カラタック小学校の女子児童たち

た。また、各学校に図書室を設置し、700 冊の図書 (パシュトゥン語 100 冊、SVA 出版絵本 500 冊、日本からの絵本 50 冊、青少年向けの本 50 冊) を提供しました。

2008 年は、ダライヌール郡カライシャイ小学校、シェワ郡タウカルババ小学校、パティコット郡タキアガレイ女子小学校の 3 棟の建設を行う予定です。



日本の図書館専門家によるおはなしの研修

国際交流および研修事業

2007 年 2 月下旬～3 月に、日本より図書館専門家、絵本・紙芝居作家が現地を訪問し、能力強化研修を実施。図書館事業スタッフ、教育局職員 2 人、情報文化局職員 1 人が参加しました。研修では、日本の図書館の歴史を追いながら公共図書館について学び、アフガニスタンでの図書館における空間作りを考えました。また、身の回りにあるものでできること、という

コンセプトで紙芝居をはじめとする教材作りのワークショップを行いました。2007 年 4 月、現地スタッフ 2 人が、ナンガハール州元教育局長ガルディワル氏と共に、日本で開催された児童図書出版についての研修に参加しました。また、9 月には、所長会議に併せて、現地副所長が来日しました。



日本の絵本・紙芝居作家による紙芝居作りの研修

緊急救援 Emergency Relief



被災者からの聞きとり調査を行う当会スタッフ（バングラデシュ）



輪島災害ボランティアセンター（能登）



被災地での子ども向けイベント（能登）

2007年度は、能登半島地震（3月）、中越沖地震（7月）、バングラデシュ・サイクロン（11月）と3つの災害被災者支援活動を行いました。その傍ら、日頃からの「地域で顔の見える関係づくり」が災害の対応において重要であることから、加盟する東京災害ボランティアネットワークにおける防災・減災への取り組みや災害支援団体とのネットワーク構築、SVA災害支援サポーターメンバーとの防災教育なども継続して行いました。

能登半島地震救援事業

2007年3月25日に能登半島沖を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生し、死者1人、1万棟以上の家屋が被害を受けました。SVAでは、地震直後より1カ月にわたりスタッフを輪島災害ボランティアセンターに派遣し、被災地でのボランティアコーディネートおよび社会福祉協議会や地元ボランティアグルー

プによる被災者支援プログラムの計画・実施をサポートしました。また、被害の大きかった門前地区は曹洞宗の総持寺祖院の門前であるご縁から曹洞宗の僧侶有志が始めた被災者支援活動「きょうちや行茶活動」（避難所などでお茶を飲みながら被災者に寄り添い、話を傾聴する活動）も支援しました。

中越沖地震救援活動

2007年7月16日、新潟県中越沖を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生、死者15人、重軽傷者2,315人、全壊家屋1,319棟の被害がありました。SVAは、柏崎市社会福祉協議会が開いた災害ボランティアセンター（以下、柏崎VC）と曹洞宗現地対策本部内ボランティア本部（以下、曹洞宗VC）の2カ所に約

3カ月にわたり職員6人を派遣し、ボランティア活動の調整業務を行いました。曹洞宗VCでは避難所や仮設住宅で能登半島地震でも行った「行茶」活動の調整を、柏崎VCではセンターの運営や仮設住宅支援の立ち上げをサポートしました。

バングラデシュ・サイクロン被災者救援活動（初動調査）

2007年11月15日深夜、バングラデシュ南部を巨大なサイクロンが襲撃し3,000人以上の死者、約150万世帯への家屋被害をもたらしました。低地では浸水がひかず、収穫時期を直前にして多くの被災者が生活再建の手段を失いました。SVAではサイクロン発生14日後に被災地での調査を開始し、日本ではあまり大

きく取り上げられることがなかった現地の状況や支援の必要性を鑑み、2008年1月より半年間の予定で支援事業を開始することになりました。子どもたちへの学用品配布やサイクロン・シェルターの建設などの被災地支援事業を通じて、被災地域全体の復興を後押ししていきます。



避難所での行茶活動（中越沖）

「みやけじまく風の家」支援事業

2005年秋から始まった三宅島島民の帰島以降、SVAは継続して島民のふれあいのための場「みやけじまく風の家」(2005年開所)へのサポートを中心に復興支援を継続しています。

2007年は7月に島民との交流も兼ねた現地研修、12月には「風の家」の企画による「年

末おそうじボランティア」へ参加しました。くらしの再建が始まり2年を迎え、島民の高齢化率が4割に近い三宅島での支援事業を通じて、今後も東京災害ボランティアネットワーク加盟団体と協働し「支え合い」の取り組みに参加していきます。



仮設の小屋での避難生活（バングラデシュ）

SVA災害支援サポーターとの協働

地域で防災・減災を目指した活動に取り組んでいるSVA災害支援サポーターと月に1度のミーティングを行っています。そこでは互いの取り組みについて紹介したり、国内災害時での連携や防災をテーマとしたキャンプやワーク

ショップなど一緒に活動を行うための話し合いも継続しています。国内災害が続いた2007年は、お互いのネットワークを活かした被災者支援活動を模索し、協働の輪を広げることができました。



子どもたちの笑顔は被災地の希望（バングラデシュ）

「首都圏統一帰宅困難者対応訓練」への参加

大地震が首都圏で起きた際、多くの人を安全に帰宅させるための「帰宅困難者対応訓練」が2007年11月に行われ、SVAも企画段階から参加しました。都心から千葉、埼玉、神奈川、西東京の各方面を目指す4コースを1,853人が歩き、食料や水、トイレや休憩場所を提供

し避難者を支えるAS（エイド・ステーション）運営訓練には、自治会や企業等1,227人が参加しました。その中でSVAは杉並区善福寺町で、同自治会と曹洞宗善福寺の協力を得て境内にASを設置し、地域住民と共に徒歩帰宅者の支援訓練を行いました。



帰宅困難者対応訓練でのエイド・ステーション

日本 Japan

2007年度は「顔が見える関係」づくりをテーマに掲げ、地域の支援者や他団体とともに様々な活動に取り組みました。10月には九州・中国地区の代議員が中心となって初の「代議員のつどい」が開かれ、約30人が膝を交えて意見交換と親睦を深めました。2008年度は、理事・代議員・会員・国際ボランティアの寺の皆さまとの連携をさらに強め、SVAの発信する国内運動の輪を地域において広げていきたいと考えています。



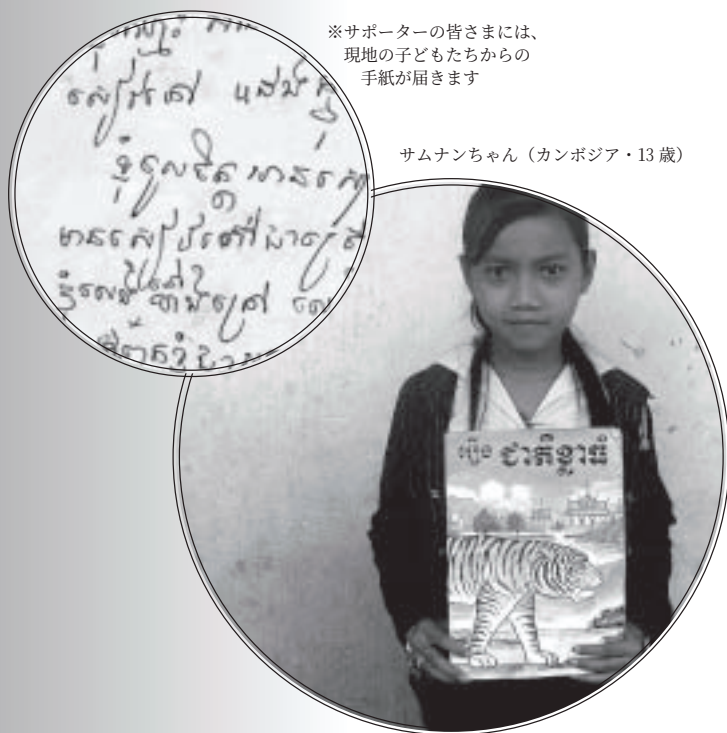
子どもも大人も訳文貼りに参加

絵本を届ける運動

2007年度は、従来のカンボジア・ラオスに、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ・アフガニスタンが加わり、総計1万6,641冊の絵本を届けることができました。個人のほか、のべ73の学校、98の企業が参加し、ベルマーク教育助成財団からの助成や船会社による輸送支援も継続していただきました。2008年度は1万7,000冊を目標に更なる広がりを目指します。

広報活動

ホームページの整備により、年間アクセス数が前年比の約3倍。ニュースレター「シャンティ」も10月から内容、デザインを一新しました。（社）落語芸術協会との共催で「チャリティ寄席」を各地の寺院で、東京では「チャリティライブ」を、開催しました。2008年度は、顔の見える関係を大切に、チャイルド・ブック・サポーターを柱とした広報と、宗教法人への広報に力を注ぎます。



※サポーターの皆さまには、
現地の子どもたちからの
手紙が届きます

サムナンちゃん（カンボジア・13歳）

チャイルド・ブック・サポーター

2007年度末までに、503口、418人の方々がサポーターとしてご登録。4月のシンポジウム、8月の現地訪問ツアー（ラオス）、10、11月のサポーター交流会を通じて、新しい出会いを得ながら、理解を深め合うことができました。海の向こうの子どもたちを思い描きつつ、サポーターの皆さまとともに着実に輪を広げていきたいと思ひます。



島根県のお寺で開催されたチャリティ寄席



2008年度版 カタログ

クラフト・エコ

2007年度は、通販と記念品の売上が伸び、売上額が予算比の112%、ご協力者数は1,190人に増えました。2008年度は、クラフト生産者との関係を深め、より良い商品の開発を進めます。また、公正な貿易であるフェアトレードの意義を伝えるため、カタログやWebサイトを充実させ、丁寧な広報活動に力を入れていきます。



提供していただいた本やCD

リサイクル・ブック・エコ

2007年度は、従来のチラシを見直し、新しいパンフレットを作成しました。新聞掲載の結果、大きな反響があり、全国の皆様に参加していただけるきっかけとなりました。また、ネットオフ株式会社のご協力で『スマイル・エコ・プログラム』を開始しました。

2008年度は、一層活動を身近に感じてもらえるように、わかりやすい広報に努めます。



タイ メン族の子ども来日報告会

海外事業支援

2007年度は、海外3事務所の現地スタッフが図書出版研修・報告会のため来日したほか、タイの子どもたちが日本各地で報告会を行いました。また、海外事務所人材育成計画（2005年～2007年）の評価を行いました。2008年度も、引き続き海外事業を支えるための資金調達活動を行い、国内での様々なネットワークと情報交換を行いながら連携していきます。



JNNEで作成したライフスキル教育マニュアル

企画調査・政策提言活動

外務省、国際協力機構（JICA）、お茶の水大学から教育協力についての調査、セミナーを受託実施しました。また、教育協力NGOネットワーク（JNNE）の事務局を務め、『EFAグローバルモニタリングレポート2008』の翻訳出版、セミナーをJICA、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と共催 文部科学省「ライフスキル教育事業運営マニュアル開発事業（2年次）」を行いました。2008年G8サミットNGOフォーラムに参加、基礎教育・児童労働について政策提言を行いました。

2008年度は、JNNE事務局として、EFAキャンペーン「世界一大きな授業」を行います。

会計報告 Accounting Report

● 2007 年度収支計算書 2007 年 1 月 1 日～2007 年 12 月 31 日

収入の部

(単位：円)

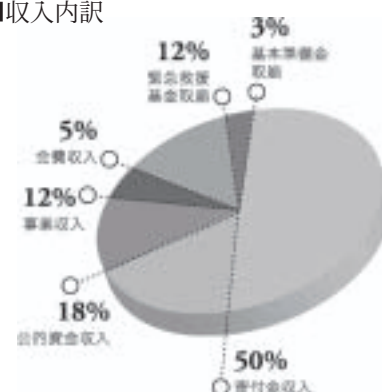
基本財産運用収入	702,406
会費収入	30,417,000
寄付金収入	319,346,883
アジア子ども募金	80,266,299
タイ事業指定募金	41,118,821
カンボジア事業指定募金	57,388,599
ラオス事業指定募金	37,458,664
ミャンマー（ビルマ）難民事業指定募金	9,091,332
アフガニスタン事業指定募金	29,861,612
絵本を届ける運動募金	32,675,411
チャイルド・ブック・サポーター	11,868,644
リサイクル・ブック・エイド	2,675,734
緊急救援募金	16,941,767
事業収入	74,583,919
国内公益関連収入	39,011,969
海外公益関連収入	6,176,071
その他の収入	29,395,879
補助金収入	116,858,408
外務省	52,579,027
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）	18,020,429
国際協力機構（JICA）	27,824,031
その他公的機関	18,434,921
基金等預金取崩収入（緊急救援・奨学金・人材育成）	77,075,111
基本準備金取崩収入	21,000,000
当期収入合計（A）	639,983,727
前期繰越収支差額	9,942,527
収入合計（B）	649,926,254

支出の部

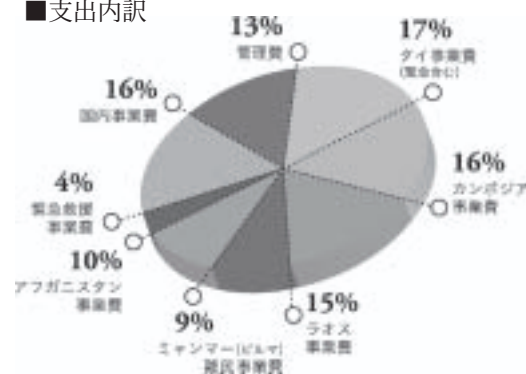
事業費	566,228,844
一般海外事業費	タイ事業費 107,717,270
	カンボジア事業費 105,994,397
	ラオス事業費 96,751,502
	ミャンマー（ビルマ）難民事業費 61,203,201
	アフガニスタン事業費 63,688,539
緊急救援事業費	23,975,409
国内事業費	一般国内事業費 72,628,576
	クラフト・エイド事業費 34,269,950
管理費	83,134,834
	人件費 ※ 57,972,723
	業務委託費 7,559,992
	施設費 10,560,928
	諸経費 7,041,191
当期支出合計（C）	649,363,678
当期収支差額（A）-（C）	-9,379,951
次期繰越収支差額（B）-（C）	562,576

※人件費は役員報酬額 4,987,500 円が含まれる（専務理事報酬のみ、他役員は無報酬）。

■収入内訳



■支出内訳

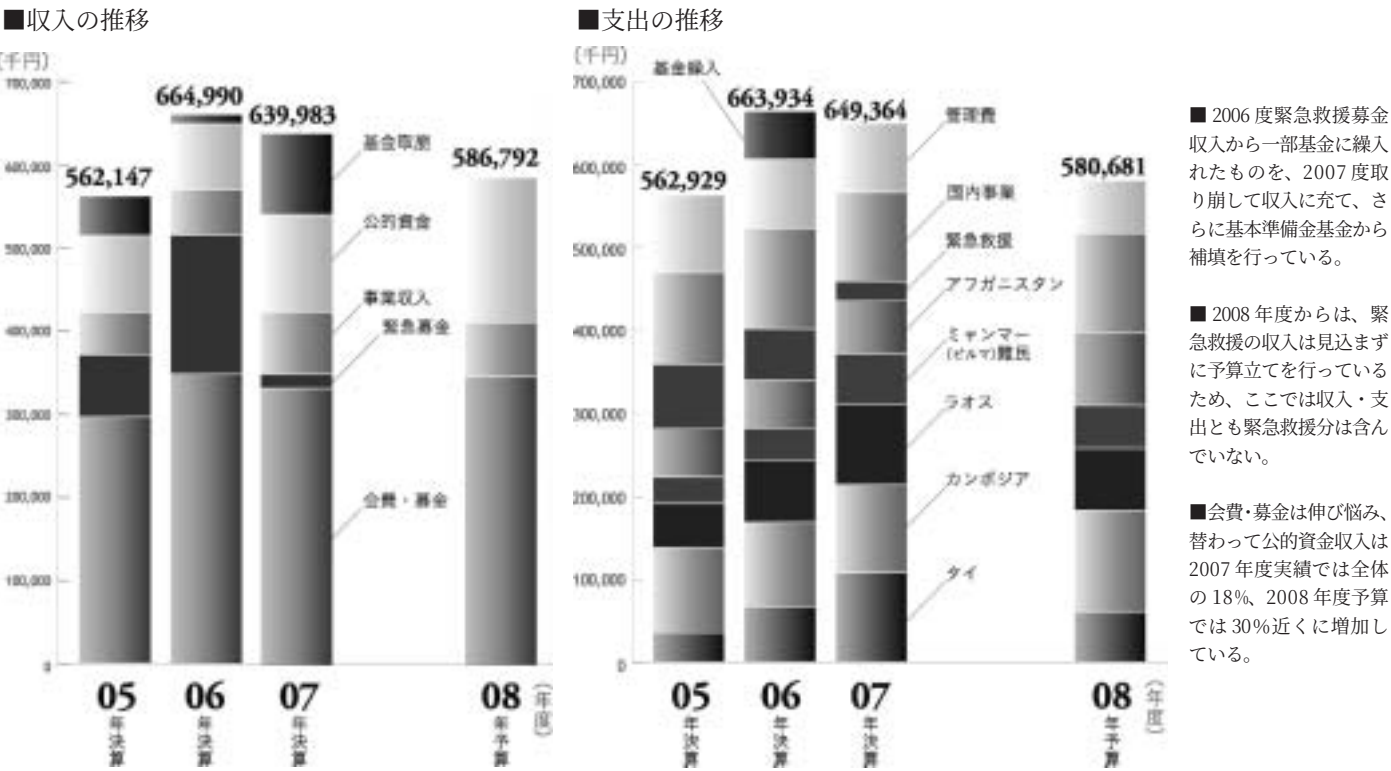


2007年度に補助金、助成金を受けた主な公的機関・団体

- 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）
 - ・ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける図書館活動事業／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ
- 外務省
 - 「日本 NGO 連携無償資金協力」
 - ・ラオスにおける村ぐるみの学校教育支援事業／ラオス
 - ・コンボントム州バン・ニウム小学校及びトレレン小学校建設計画／カンボジア
 - ・ナンガルハル県における小学校建設事業／アフガニスタン
 - ・伝統文化継承のためのノンフォーマル教育支援事業／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ
- 国際協力機構（JICA）
 - ・カンボジアにおける小学校での図書館活動普及のための人材育成事業／カンボジア 3年計画の1年目
 - ・図書館活動を通じた初等教育の質の改善事業／カンボジア 3年計画の3年目
 - ・公共図書館支援を通じた図書・読書活動普及事業／ラオス 3年計画の3年目
 - ・図書普及活動を通じた初等教育の質的な改善事業／アフガニスタン 3年計画の1年目
- 独立行政法人 郵便貯金・簡易生命保険管理機構
 - ・少数民族のための補助教材の作成及び活用方法の指導／ラオス
 - ・難民のための教育環境の改善及び図書館員の研修・指導／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

●収入と支出の内訳と推移

収入の内訳						支出の内訳					
(単位：千円)						(単位：千円)					
	05 決算	06 決算	07 決算	08 予算	構成%		05 決算	06 決算	07 決算	08 予算	構成%
会費・一般事業募金	296,243	348,694	333,524	347,153	59.1%	タイ事業費	35,460	66,963	107,717	60,619	10.4%
緊急救援募金	74,996	167,025	16,942	0	0.0%	カンボジア事業費	102,380	101,284	105,994	122,205	21.0%
公益事業関連収入等	51,415	54,657	74,584	65,519	11.2%	ラオス事業費	53,355	75,009	96,752	74,779	12.9%
公的資金	91,726	90,005	116,858	174,120	29.7%	ミャンマー（ビルマ）難民事業費	31,582	38,031	61,203	52,103	9.0%
基金等取崩収入	47,767	4,609	98,075	0	0.0%	アフガニスタン事業費	58,544	58,803	63,689	87,993	15.2%
合計	562,147	664,990	639,983	586,792	100.0%	緊急救援事業費	77,749	61,476	23,975	0	0.0%
						国内事業費	110,564	121,553	106,899	119,085	20.5%
						管理費	93,295	83,069	83,135	63,897	11.0%
						基金等預金支出（基金繰入）	0	57,746	0	0	0.0%
						合計	562,929	663,934	649,364	580,681	100.0%



●貸借対照表 2007 年 12 月 31 日現在

資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金預金	94,230,309		未払金	56,187,215	
売掛金	109,115		前受金	54,050,372	
未収金	13,744,400		預り金	13,830,317	
前払金	6,425,962		未払法人税等	547,892	
貯蔵品（手工芸品）	7,297,102		その他流動負債	1,676,126	
その他の流動資産	5,047,610		負債合計	126,291,922	
固定資産	243,321,452				
基本金預金	50,000,000		正味財産の部		
基本準備金預金	90,129,902		正味財産合計	243,884,028	
基金等預金他	103,191,550		（うち当期正味財産減少額）	(109,386,034)	
資産合計	370,175,950		負債および正味財産合計	370,175,950	

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および新日本監査法人による計算書類の審査を受けております。

組織ネットワーク Organization&Network

❖ 会員



会員合計	2,167名
社員会員	348名
社員個人会員	289名
社員団体会員	59名
賛助会員	1,818名
賛助個人会員	1,504名
賛助団体会員	181名
賛助学生会員	95名
賛助維持個人会員	23名
賛助維持団体会員	15名
名誉会員	1名

(2007年12月31日現在)

❖ 名誉会長

松永 然道 静岡県・宗徳院住職

❖ 顧問

足立 房夫	社団法人協力隊を育てる会 会長、社団法人東京都障害 者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳 荒巻 裕	宮城県・光寿院住職 近畿大学副学長・文芸学部 教授
川原 英照	熊本県・蓮華院誕生寺貫主、 特定非営利活動法人れんげ 国際ボランティア会会長
簀本 宏昌 藤本 幸邦	東京都・泰宗寺住職 名誉会員、長野県・円福寺 東堂、円福友の会会長
松野 宗純	福井県・地藏院東堂、全国 PHP友の会相談役

❖ SVA国際ボランティア親善大使

佐々木 主浩 元横浜ベイスターズ

(2008年4月1日現在)

❖ 役員

理事(会長)	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
理事(副会長)	神津 佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役
理事(副会長)	三部 義道	山形県・松林寺住職
理事(専務理事)	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺副住職
理事(常務理事)	倉科 利行	長野県・全久院住職
理事(常務理事)	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事(常務理事)	八木沢 克昌	SVAカンボジア事務所長 ※5月1日よりアジア地域ディレクター
理事	赤石 和則	拓殖大学国際学部教授
理事	上原 泰男	東京災害ボランティアネットワーク事務 局長
理事	小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア 協会常務理事
理事	亀崎 弘記	電力総連組織局次長
理事	里見 照子	医療法人英然会理事
理事	繁岡 哲哉	曹洞宗栃木県国際ボランティア会事務局 長
理事	角 直彦	特定非営利活動法人シャンティ山口代表
理事	野村 修一	弁護士
理事	萩野 頼子	株式会社飯能製作所代表取締役社長
理事	秦 辰也	近畿大学文芸学部教授
理事	笛岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	渡津 法晃	愛知県・龍洞院住職
監事	青木 利元	ボランティア活動推進国際協議会理事、 ボランティア活動国際研究会代表
監事	白石 孝	自治労荒川区職員労働組合書記長

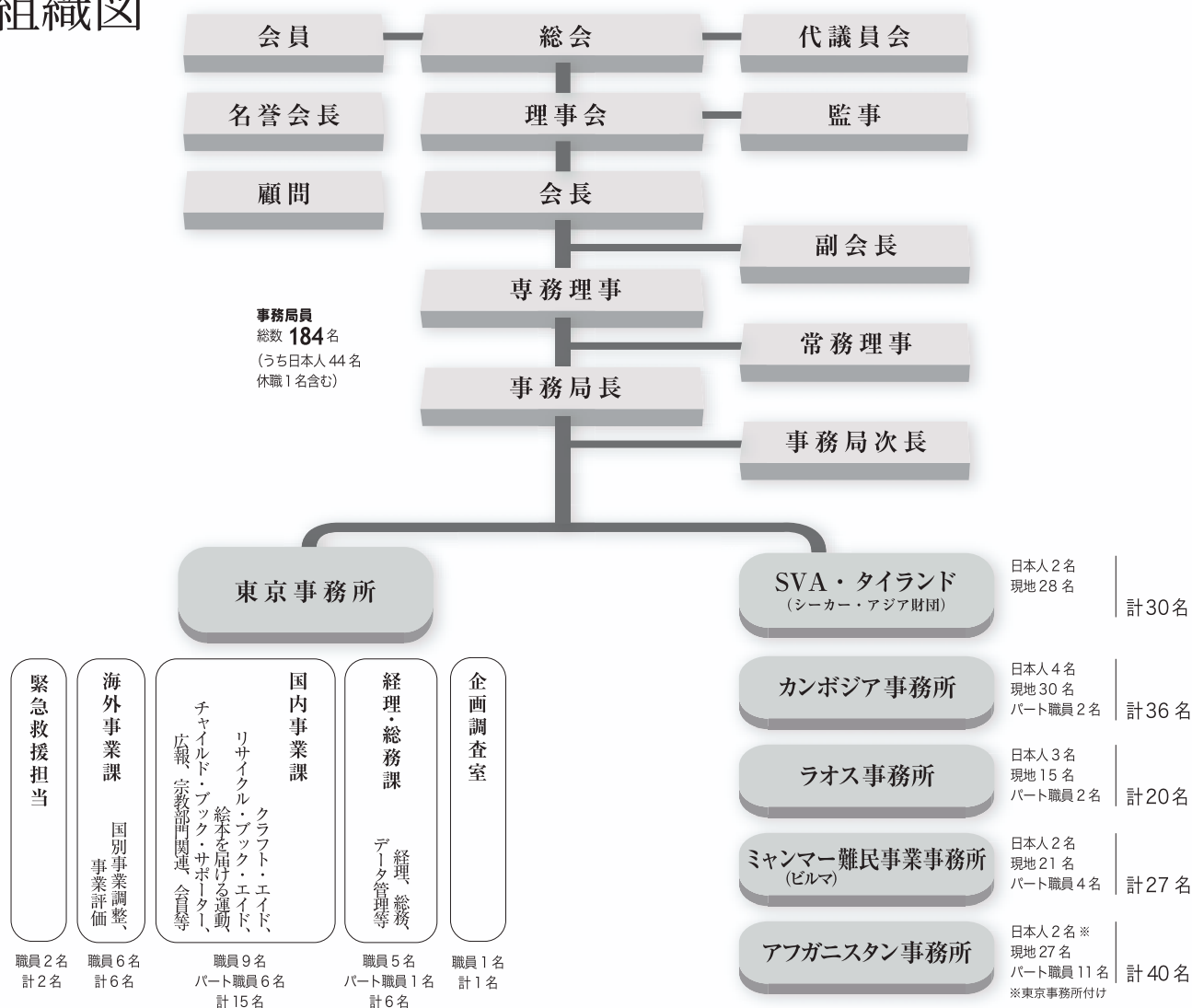
(2008年4月1日現在)

❖ 代議員

萩野 徹厳(北海道)	木村 憲(千葉)	松永 寛道(静岡)
高山 元延(青森)	櫻井 大文(千葉)	透 隆嗣(岐阜)
鳥谷部 俊悦(青森)	芦川 正夫(東京)	浅田 有彦(愛知)
谷本 俊昭(岩手)	浅野 幸子(東京)	富田 基房(大阪)
赤塚 俊治(宮城)	柏原 信幸(東京)	SVA京都寺院の会(京都)
伊串 泰純(宮城)	坂本 観晃(東京)	田村 薫(兵庫)
岡崎 正利(宮城)	坂本 観泰(東京)	林 道子(兵庫)
金平 祖隆(福島)	増田 和生(東京)	橋本 純信(奈良)
黒田 光泰(栃木)	安井 清子(東京)	原 道雄(島根)
矢島 道彦(栃木)	吉原 里絵(東京)	西村 信恵(広島)
鎌田 恭子(茨城)	渡辺 恵司(東京)	町田 宗鳳(広島)
田中 治彦(茨城)	渡辺 有理子(東京)	有馬 嗣朗(山口)
石本 浩道(群馬)	近藤 博道(長野)	松尾 哲雄(長崎)
青木 利人(埼玉)	丸山 素香(長野)	甲斐 之彦(大分)
後藤 史郎(埼玉)	高橋 敬雄(新潟)	荒木 正昭(熊本)
三田村 昌生(埼玉)	渡邊 真人(新潟)	
宮寺 守正(埼玉)	嶋田 英淳(静岡)	

(2008年4月1日現在)

組織図



(2008 年 4 月 1 日現在)

❖ 参加ネットワーク一覧

◎国内

2008 年 G8 サミット NGO フォーラム【運営 NGO、監事】、貧困・開発ユニット・基礎教育・児童労働ワーキンググループ【事務局】/ NGO-労働組合国際協働フォーラム【企画委員】/ 開発教育協会 (DEAR)【理事】/ カンボジア市民フォーラム【団体会員】/ 教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)【運営委員、事務局長】/ 国際協力 NGO センター (JANIC)【理事】/ ジャパン・プラットフォーム (JPF)【NGO ユニットメンバー】/ 地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)【団体会員】/ 震災がつなぐ全国ネットワーク (震つな)【幹事】/ 中央共同募金会-災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】/ 東京災害ボランティアネットワーク (東災ボ)【副代表、運営委員】/ 日本アフガニスタン NGO ネットワーク (JANN)【団体会員】/ 日本 UNHCR-NGOs 評議会 (J-FUN)【団体会員】/ ビルマ市民フォーラム【団体会員】/ 仏教 NGO ネットワーク (BNN)【代表運営委員】

◎海外

Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)、在アフガニスタン【会員】/ Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)【理事】/ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT) (難民支援事業調整委員会)、在タイ【会員】/ Cooperation Committee for Cambodia (CCC)、在カンボジア【会員】/ Coordinating Committee for Slum Development (CCSD)、在タイ【会員】/ International NGO Education Meeting、在ラオス【会員】/ International NGO Meeting、在ラオス【会員】/ Japanese NGO Network in Cambodia (JNNC)、在カンボジア【世話人】/ Japanese NGO Network Meeting (JANM)、在ラオス【会員】/ NGO Education Partnership (NEP)、在カンボジア【会員】/ Resettlement Action Network (RAN)、在カンボジア【会員】/ Task Force for Children in Thailand (TFCT)、在タイ【会員】

(2008 年 4 月 1 日現在)

❖ 国内における 主な受賞歴

正力松太郎賞 (84 年)

ソロプチミスト日本財団賞 (85 年)

外務大臣賞 (88 年)

毎日国際交流賞 (94 年)

東京都豊島区感謝状 (95 年)

防災担当大臣賞 (04 年)

兵庫県知事感謝状 (05 年)

(2008 年 4 月 1 日現在)

シャンティ

2008年6月1日発行（1、4、7、10月1日発行）

増刊 通巻246号

1985年6月28日第三種郵便物認可

手を、とりあうこと。

寄付金について、 税の優遇措置が 受けられます

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、外務省より「特定公益増進法人」として認定されています。ご寄付いただいた方は、所得税・法人税および相続税の寄付金控除の適用を受けることができます。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。